

自分と向き合い、自身の殻を破って、 力強い将来像を描かせたい



栃木県立真岡高等学校

進路指導主事 石塚 政洋 先生 (写真中央)

2学年主任 千葉 哲也 先生 (写真右)

1学年主任 船越 高典 先生 (写真左)

栃木県立真岡高等学校は、「至誠」の精神を教育の基本精神とし、地域の期待を担う名門男子校として、長年培われた「質実剛健」「文武両道」の気風を継承しています。2016年、初めて夢ナビライブに参加しました。

イメージで決めてしまいがちな学部学科の選択を、夢ナビライブの事前準備、当日の体験、事後指導を通じて具体的な研究に触れることで確認し、また個別面談を繰り返し実施することで、一人ひとりの生徒の進路指導に生かしています。

狭い視野から抜け出し、殻を破り、自分と向き合ってほしい

石塚：土地柄もあって自分が生まれ育った枠の中で将来を考えてしまいがちです。それには、いろいろな所に興味を持てるはずなのにそのチャンスをつかんでこなかったという理由もあ

ります。夢ナビライブに参加することで将来の選択肢を広げる体験をしてほしいという願いがありました。また、4万人という参加者を見て、同年代でこんなにくさん受験をする生徒がいるんだということを実感し、「圧倒されてきてほしい」という思いがありました。

千葉：最初から狭い視野の中で決めてしまつて動かない生徒には、一度は視野を広げて考えさせることが必要です。自分としっかり向き合わせる機会を作ることが何よりも大事だと考えました。そのために、夢ナビライブに向けた事前準備の中で、「個々の多様な個性に合わせて、興味関心を広げさせる」「新しく自分がやりたいと思えることと出会う」ことの実現をめざしました。

講義の選択、行動計画を立てること自体が、多様な個性に対応する進路研究

船越：夢ナビライブは「ALL in ONE」なので、進路の決定のレベルがどういう段階の生徒であっても、それぞれが自分に合った使い方ができます。まだ進路が決まっていない生徒はいろいろな講義が聴けるし、決まっている生徒はその分野に絞ってじっくり受講できます。目標の大学まで決まっている生徒は大学ブースに直接話を聞きに

いけるといいうように、いろいろな選択肢があるので非常に有意義だと思いました。

千葉：ロングホームルームの時間を使って参加の準備を進めました。自分に合った当日の行動予定を構築するための、本校のオリジナルの時間割「夢ナビライブ SCHEDULE」も作成し、行動計画を立てる指導の中で時間割を担当がチェックして、埋まっらない時間は問いかけをして全部埋まるようにしました。

大学の情報もさまざまに発信され

夢ナビライブ SCHEDULE				
栃木県立真岡高等学校 2年 組 番 氏名				
	ステージZONE (講義ライブ)	夢ナビTALK (3分間の質問プレゼンテーション)	ブースZONE (次生後継説明会)	主な ステージ (学期説明)
1 時間 11:00 ～ 11:30	タイトル: 担当: コード:	タイトル: 担当: コード:	大学: ジャンル:	
2 時間 11:30 ～ 12:00	タイトル: 担当: コード:	タイトル: 担当: コード:	大学: ジャンル:	
3 時間 12:00 ～ 13:00	タイトル: 担当: コード:	タイトル: 担当: コード:	大学: ジャンル:	
4 時間 13:00 ～ 14:00	タイトル: 担当: コード:	タイトル: 担当: コード:	大学: ジャンル:	
5 時間 14:00 ～ 14:30	タイトル: 担当: コード:	タイトル: 担当: コード:	大学: ジャンル:	
6 時間 14:30 ～ 15:00	タイトル: 担当: コード:	タイトル: 担当: コード:	大学: ジャンル:	
7 時間 15:00 ～ 15:40	タイトル: 担当: コード:	タイトル: 担当: コード:	大学: ジャンル:	

▲栃木県立真岡高等学校オリジナルの「夢ナビライブ SCHEDULE」

人ひとりの生徒に新しく自分がやりたいと思えることと出会うことにつながりました。

千葉：本校では1年に6回の個別指導面談を行っているのですが、夢ナビライブの準備をする過程で、その生徒が何を志望しているのかがよく見えるようになりました。

例えば、志望が「工学部機械科」という場合、どんな機械がやりたいのか聞くと「なんとなく」という返事が返ってきます。でも機械工学に関する講義ライブでどの講義を聴いてみたいのか質問すると生徒は

答えることができるのです。2年生で具体的には学部学科を絞っていく作業に入るのですが、どんな学科に進みたいのかということを探る手段として、自分で一歩ずつ前進していくという実感をつかみながら進路を検討していくことができると思います。

志望理由書作成の
取り組みをスタート

石塚：一人ひとりの生徒に自分が学びたいことを基点にした進路選択をしてほしいとの願いから、2年生の3学期に生徒が自分自身と向き合う時間を作るために、「志望理由書」を書く取り組みを始めました。夢ナビライブで広げた将来展望を、ここで絞り直して進路を確定していくという位置づけです。一回しっかりと自分で考えて意志を固めておかないと、受験になったときに自分がやりたいことができるか確認できていない大学を受験することにもなりかねません。志望校を1校だけにするのはなく、自分が学びたい学問を基点として志望学群を考えておくように指導しています。

千葉：2年生の秋には修学旅行があつて、ここで生徒たちは一度弾けて気が緩むので、「本物の受験生になるんだ」という切り替えの意味も込めて取り組ませています。ずっと同じ志望の

生徒もいれば、新たに大学を加えてくる生徒もいます。固まらない生徒にはこちらから提示もしますが、あくまで、生徒が主体的に自分から調べるという方法をとるようにしています。多かれ少なかれ、それぞれの生徒に夢ナビライブに参加した経験が生きていると思います。

船越：実は夢ナビライブから帰ってきてすぐに1年生に、「すごく面白かったぞ、2年生になったらみんな夢ナビライブに行くんだぞ」と伝えました。来年は志望理由書作成も意識した参加をさせていきたいと考えています。本学では1年次から進路に関して自分が書いた資料などは、まとめてファイリングしておくようにという指導をしています。今1年生には文理選択を終えた生徒に学部学科の選択をどうするかという話をしていますが、まだイメージで決めているだけです。

夢ナビライブでは専門的な学問の魅力に出会う中で、その分野が自身のやりたいことと合致しているかを確認させたいと思います。夢ナビライブで視野を広げた体験やその時々で自分で考えていたことを記録に残すということは大事で、その時点その時点で自分が考えた作業の積み重ねの結果、進路が決定されていくのだと思っています。